

第3回 第5次八戸市総合計画後期推進計画策定委員会

平成22年7月16日(金) 午後1時
八戸市公会堂文化ホール2階 会議室

次 第

1. 開会

2. 委員長あいさつ

3. 報告案件

(会議資料)

報告1. アンケート調査の結果について ……P1～7、資料5・6

報告2. 市民との意見交換の実施結果について ……P8～20

報告3. 第2回部会での審議結果について ……P21～25

4. 審議案件

審議1. 後期推進計画の1次案について ……資料7・8

5. その他 ……資料9

6. 閉会

第3回 会議資料

第5次八戸市総合計画後期推進計画策定委員会

八 戸 市

平成 22 年 7 月 16 日

目次

報告1 アンケート調査の結果について	1
1. 市民アンケート	1
2. 有識者アンケート	5
報告2 市民との意見交換の実施結果について	8
1. 意見交換の実施状況	8
2. 主な意見内容	9
①大学生グループインタビュー（八戸大学）	9
②大学生グループインタビュー（八戸工業高等専門学校）	10
③大学生グループインタビュー（八戸工業大学）	11
④女性団体等グループインタビュー	11
⑤NPOグループインタビュー	13
⑥市民ワークショップ	14
【テーマ①：地域活力の創出】	14
【テーマ②：まちの魅力創造】	14
【テーマ③：地域の安心確立】	15
【テーマ④：自治基盤の整備】	15
⑦～⑩意見交換会（4回開催分）	17
1. 地域活力の創出	17
2. まちの魅力創造	18
3. 地域の安心確立	19
4. 自治基盤の整備	20
その他意見	20
報告3 第2回部会での審議結果について	21
1. 地域活力の創出プロジェクト群	21
2. まちの魅力創造プロジェクト群	22
3. 地域の安心確立プロジェクト群	23
4. 自治基盤の整備プロジェクト群	24

報告1 アンケート調査の結果について

1. 市民アンケート

<調査の概要>

(1) 目的

- ・戦略プロジェクトに関する市民の行動・意識の把握
- ・前期推進計画期間における経年変化と現在の状況について分析

(2) 調査項目

1) 地域活力の創出関連

- | | |
|-------------------|------------------------|
| ①地域産業の高度化について | ②農産物の地産地消の普及について |
| ③水産業の活力の維持・回復について | ④八戸市の魅力を全国に発信する取組みについて |
| ⑤市民参画による観光振興について | ⑥産学官民の連携促進について |
| ⑦雇用を取り巻く状況について | |

2) まちの魅力創造関連

- | | |
|-----------------|----------------------------|
| ①中心街の再生について | ②市民の自主的な文化活動、スポーツ活動の促進について |
| ③市民の環境意識の高揚について | ④公共交通の活性化について |

3) 地域の安心確立関連

- | | |
|--------------------------------|------------|
| ①地域における世代間交流の推進について | ②子育て環境について |
| ③高齢者・障害者の生活環境について | |
| ④健康な生活や暮らしの安全を確保するための体制づくりについて | |

4) 地域の安心確立関連>

- | |
|-------------------------------|
| ①市民と行政による協働の仕組みの構築について |
| ②市民福祉の向上や効率的な行政運営のための各種改革について |
| ③窓口サービスの向上や、市民への情報提供の充実について |
| ④定住自立圏構想について |
| ⑤三圏域連携について |

(3) 調査対象

- ・八戸市在住の満 18 歳以上の市民 1,000 人 (有効回収数 : 607 票、有効回収率 : 60.7%)。

(4) 調査時期

- ・平成 22 年 5 月 19 日～6 月 2 日 (2 週間)

(5) 調査方法

- ・郵送配布、郵送回収 (お礼状・督促状を 1 回配布)

<結果の概要> 表中：前回と比較して5%以上変化があった項目に編掛け

- ・八戸地域で生産された農産物に対する評価が上がっており、地場産品を購入頻度も増えている。
- ・水産物に対する評価があっており、ブランド性に対する認識も高まっている。
- ・雇用状況に対する認識は前回よりも厳しくなっている。
- ・環境保全行動の実践状況は、積極的に行動するとの回答割合が増えている。
- ・地域活動が活発であるとの回答割合が増えている。
- ・市の行財政運営の情報公開・提供が積極的になされていると感じる回答割合が増えている。
- ・市のホームページを閲覧するとの回答割合が増えている。

		設問内容	前回アンケート (平成 18)	今回アンケート (平成 22)
地域 活 力 の 創 出	企業誘致推進 ・ 中小企業強化 P J	地域産業の高度化のために 必要な取組（上位 3 位）	（設問なし）	1. 人材の育成・確保：66% 2. 地域企業の連携：39% 3. 地域企業と大学等の連携：38%
		地域産業の高度化の取り組みにつ いての評価（「うまく進んでいる」、 「まあまあ進んでいる」）	（設問なし）	25%
	攻めの農業 P J	八戸地域で生産された農産 物に対する評価（上位 3 位）	1. 新鮮：57% 2. 安全：29% 3. 安い：28%	1. 新鮮：68% 2. 安全：46% 3. 安い：29%
		地場産品の購入頻度（「よく 購入」と「ときどき購入」）	55%	61%
		地場産品購入後の評価（「よ かった」）	83%	86%
	攻めの水産業 P J	水産物に対する評価（上位 3 位）	1. 新鮮：68% 2. 高い：25% 3. 安い：23%	1. 新鮮：73% 2. 安全：41% 3. 安い：26%
		水産物のブランド性への認 識（「ブランド産品がある」 と「徐々に知名度上昇」）	39%	60%
	八戸ツーリズム P J	当市の全国的な知名度（「高 まっている」と「まあまあ 高まっている」）	（設問なし）	62%
		ボランティアガイドへの参加 経験（「経験あり」）	1%	1%
		ボランティアガイドへの参加 意向（「参加してみたい」と「た まに参加してもよい」）	25%	27%
産学官民連携 P J	大学等の地域経済振興やま ちづくり貢献に対する認知 度（「よく知っている」と「聞 いたことはある」）	56%	59%	
雇用創出 P J	当市の雇用状況（「厳しい」）	77%	89%	

		設問内容	前回アンケート (平成 18)	今回アンケート (平成 22)
ま ち の 魅 力 創 造	中心市街地再生 P J	中心街の魅力に対する評価 (「魅力がある」と「どちらか 言えば魅力がある」)	9%	10%
		中心街へ出かけていく頻度 (「ほぼ毎日」、「週に 1～2 回」、「月に 1～2 回」)	1. 買物 : 31% 2. レジャー : 12% 3. 通院 : 11% 4. 仕事 : 9% 5. 通学 : 1%	1. 買物 : 30% 2. レジャー : 11% 3. 通院 : 12% 4. 仕事 : 8% 5. 通学 : 0%
	文化・スポーツ P J	文化活動・スポーツ活動の 取組み状況 (「ほぼ毎日」と 「週に 1～2 回程度」、「月 に 1～2 回程度」)	1. 文化活動 : 9% 2. スポーツ活動 : 18%	1. 文化活動 : 10% 2. スポーツ活動 : 20%
	環境創造 P J	環境保全行動の実践状況 (「積 極的に意識して実践」)	24%	31%
		バス路線の維持・活性化に 対する行政の関与 (「積極的 に支援」と「ある程度の支 援は止むを得ない」)	(設問なし)	84%
		バス路線の活性化に必要な 取組み (上位 3 位)	(設問なし)	1. バス系統をわかりやすく : 36% 2. バス停の快適化 : 34% 3. 運行本数増加 : 29% 3. 時刻表わかりやすく : 29% 3. 鉄道とバスの乗継改善 : 29%
地 域 の 安 心 確 立	次世代育成 P J	近所の子どもと接する機会 (「よくある」と「たまにある」)	46%	51%
		子どもたちと大人・高齢者世 代と一緒にやって行う活動 (「よ くある」と「たまにある」)	41%	38%
		当市は子育てしやすいまち と思うか (「そう思う」と「ど ちらかといえばそう思う」)	(設問なし)	41%
		子育てしやすいまちにする ために大切なこと (上位 3 位)	(設問なし)	1. 子どもの居場所づくり : 63% 2. 多様な保育の充実 : 47% 3. 経済的支援の充実 : 35%
	高齢者・障害者自立 P J	地域の福祉ボランティア活 動 (活発である」と「どち らかと言えば活発である」)	11%	13%
		緊急時における障害者やひと り暮らしの高齢者の支援体制 (「地域の中で支援を受けられ るようになっている」)	10%	10%
	暮らしの安心 P J	地域の健康づくり活動の状 況 (「活発である」と「どち らかと言えば活発である」)	25%	29%
		地域の安全・安心活動の状 況 (「活発である」と「どち らかと言えば活発である」)	32%	32%

		設問内容	前回アンケート (平成 18)	今回アンケート (平成 22)
自治 基盤 の 整備	協働のまちづくり PJ	地域活動・市民活動の状況 (「活発である」と「どちら かと言えば活発である」)	1. 地域活動：32% 2. 市民活動：10%	1. 地域活動：39% 2. 市民活動：14%
	行財政改革PJ	市の行財政運営に関し、積極的 な情報公開・提供がなされてい るか(「そう思う」と「どちら かと言えばそう思う」)	23%	28%
	市民サービス向上 PJ	市役所の窓口での職員の対応や姿勢に 対する評価(「満足している」と「どち らかと言えば満足している」)	52%	56%
	市民サービス向上 PJ	市役所の窓口で充実してほ しいサービスを(上位3位)	(設問なし)	1. 土日祝日サービス：54% 2. 書類・手続きの簡素化：53% 3. 出張所等でのサービス拡大：35%
		市のホームページの閲覧頻 度(「定期的に見ている」、 「必要なときに見ている」)	11%	16%
		市のホームページに対する 評価(「非常に役に立った」 と「ある程度役に立った」)	73%	77%
	広域連携・自立の促進 PJ	定住自立圏構想に対する認 知度(「よく知っている」と 「聞いたことはある」)	(設問なし)	37%
		定住自立圏構想に期待する 分野(上位3位)	(設問なし)	1. 医療：49% 2. 福祉サービス：35% 3. 地産地消：25% 3. 人材育成：25%
		三圏域連携に対する認知度 (「よく知っている」と「聞 いたことはある」)	(設問なし)	44%
		三圏域連携に期待する分野 (上位3位)	(設問なし)	1. 医療：64% 2. 観光活性化：49% 3. 農林漁業活性化：44%

2. 有識者アンケート

<調査の概要>

(1) 目的

- ・自治基盤整備計画、分野別計画の「目指す姿」に対する住民満足度の把握
- ・前期推進計画期間における定点分析

(2) 調査項目

- ・前期推進計画における自治基盤整備計画及び分野別計画の「目指す姿」に関して、現在の状況を6段階で評価する設問を設定

※6段階：①十分満たされている

②まあまあ満たされている

③どちらともいえない

④あまり満たされていない

⑤ほとんど満たされていない

⑥わからない

(3) 調査対象

- ・第5次八戸市総合計画の策定に携わった、八戸市総合計画審議会委員、同専門部会委員、及び戦略プロジェクト委員会委員の計138名に、市政モニター100名を加えた有識者238名
(有効回収数：194票、有効回収率：81.5%)

(4) 調査時期

- ・平成22年5月19日～6月2日(2週間)

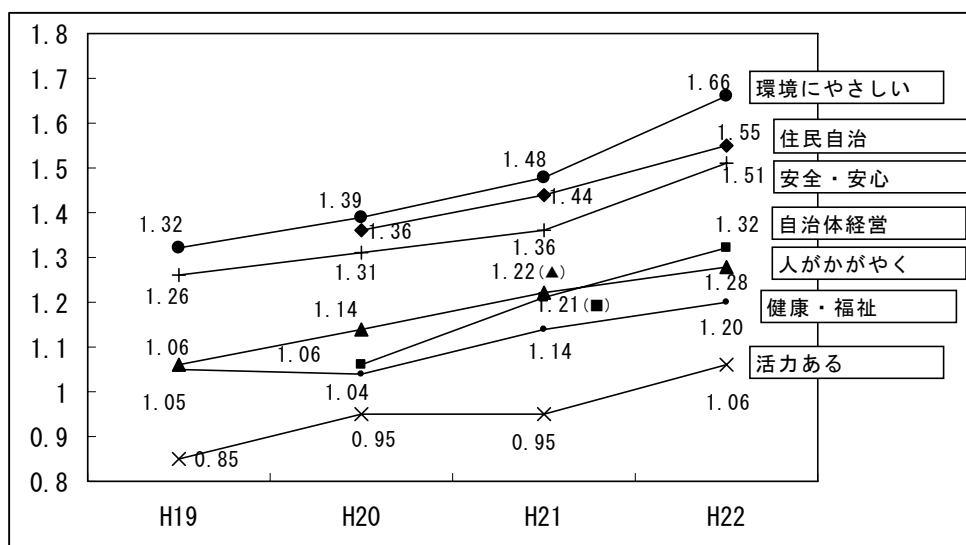
(5) 調査方法

- ・郵送配布、郵送回収(お礼状・督促状を1回配布)

<結果の概要>

(1) 政策レベルの評価得点の推移

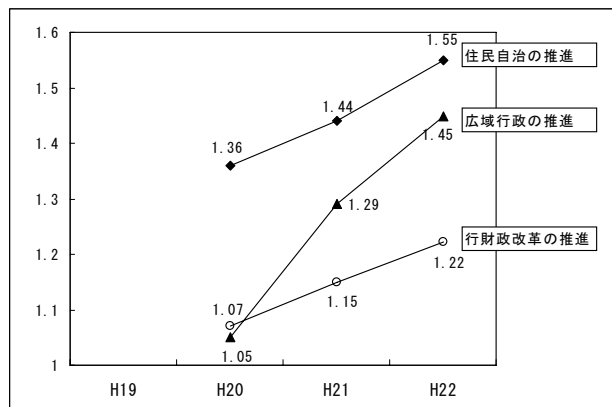
- ・「環境にやさしいまちづくり」の得点が、前回に引き続き最も高い。
- ・一方、景気の低迷を背景として「活力あるまちづくり」の得点が最も低い。



(2) 大施策レベルの評価得点の推移

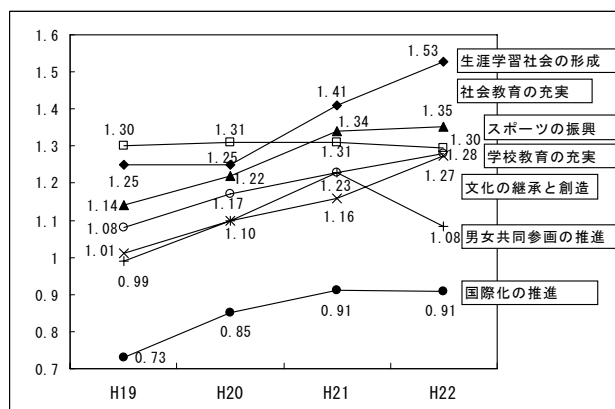
1) 住民自治の推進・自治体経営の強化

- ・「住民自治の推進」の得点が最も高い。
- ・また、「広域行政の推進」の得点の伸びが顕著であり、定住自立圏や三圏域連携の取組が評価されていると考えられる。



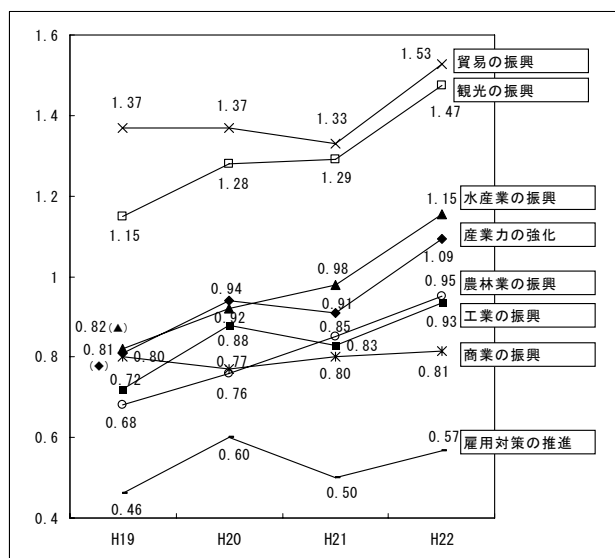
2) 人がかがやくまちづくり

- ・「生涯学習社会の形成」の得点が最も高く、伸びも顕著である。
- ・一方、「男女共同参画社会の推進」は前回と比べて下落した。



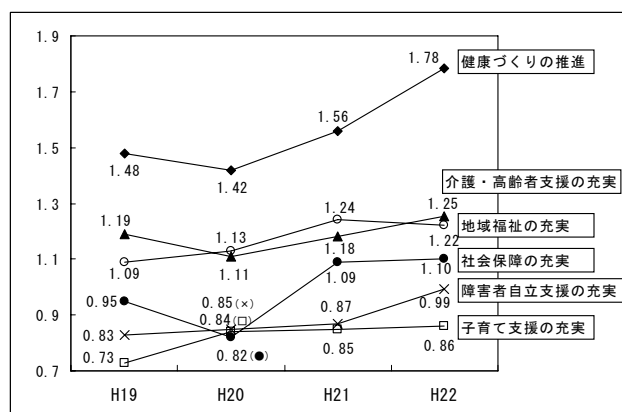
3) 活力あるまちづくり

- ・「貿易の振興」及び「観光の振興」の得点が高く、前回と比較して伸びも顕著である。
- ・一方、景気の低迷等を背景に「雇用対策の推進」の得点が最も低い。



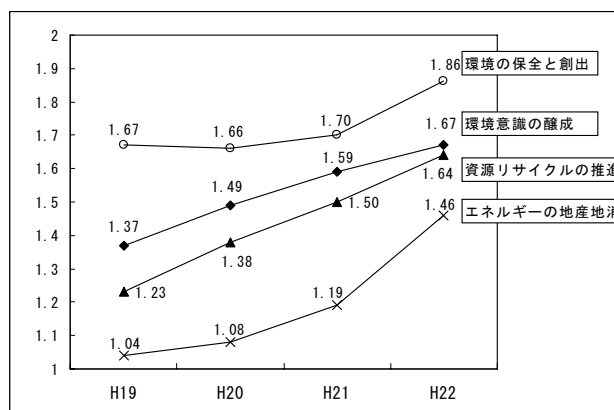
4) 健康・福祉のまちづくり

- ・「健康づくりの推進」の得点が最も高く、伸びも顕著である。
- ・一方、「子育て支援の充実」の得点が最も低い。



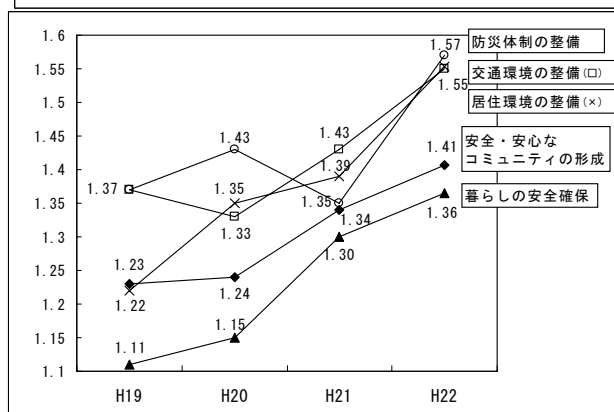
5) 環境にやさしいまちづくり

- ・「環境の保全と創出」の得点が高い。
- ・「エネルギーの地産地消」は、4 つの大施策の中で得点が低いが、得点は前回よりも伸びている。



6) 安全・安心なまちづくり

- ・「防災体制の」の得点が最も高く、「交通環境の整備」、「居住環境の整備」もほぼ同水準にある。
- ・「暮らしの安全確保」は、5 つの大施策の中で得点が低いが、得点は前回よりも伸びている。



報告 2 市民との意見交換の実施結果について

第5次八戸市総合計画後期推進計画の策定にあたり、市民のニーズや意見を反映することを目的に、6月下旬から7月上旬にかけて9回にわたり市民との各種意見交換を開催。

1. 意見交換の実施状況

幅広い世代やさまざまな分野に携わる市民のニーズや意見を吸い上げるため、後期推進計画の素案に対して次の3つの方法により意見交換を実施した。

なお、意見を出しやすくし、市民が主体となった活発な意見交換とするため、策定委員会委員をはじめ、前期推進計画の進行管理に携わった総合計画推進市民委員会の委員にコーディネーターとして参画いただいた。

(※意見交換資料：後期推進計画素案概要資料)

	名 称	日時・場所	参加者数(コーディネーター)
グループインタビュー	①大学生グループインタビュー (八戸大学)	6/24 14:20～15:50 八戸大学	学生7名 (前山総一郎 教授)
	②大学生グループインタビュー (八戸工業高等専門学校)	6/30 17:00～18:30 八戸工業高等専門学校	学生7名 (河村信治 教授)
	③大学生グループインタビュー (八戸工業大学)	※7月実施予定	
	④女性団体等グループインタビュー	6/27 10:30～12:00 市庁別館8階研修室	女性10名(10団体)
	⑤NPOグループインタビュー	6/28 18:30～20:00 総合福祉会館	11名(8団体)
ワークショップ	⑥市民ワークショップ	7/4 13:30～16:30 公会堂2階大会議室	18名(17団体) 庁内ワーカー 56名 (策定委員代表4名)
意見交換会	⑦意見交換会(1回目)	7/3 14:00～15:30 公会堂文化ホール会議室	6名、策定委員4名 (市民委員会：類家伸一)
	⑧意見交換会(2回目)	7/5 18:30～20:00 総合福祉会館	8名、策定委員3名 (市民委員会：浮木 隆)
	⑨意見交換会(3回目)	7/7 18:30～20:00 南郷公民館大ホール	12名、策定委員3名 (市民委員会：浮木 隆)
	⑩意見交換会(4回目)	7/8 18:30～20:00 水産会館2階大研修室	4名、策定委員4名 (市民委員会：河村信治)
合 計 (延べ参加者数)			163名

2. 主な意見内容

<①大学生グループインタビュー（八戸大学）>

■中心街について

- ・中心街がさみしい。ファッションビルや遊べる場所を増やしてほしい。
- ・無料の駐車場がなく、飲みに行く以外、特に行きたいと感じる場所がない。
- ・中心街でもっとイベントがあれば良いと感じる。

■仕事について

- ※地元または県内、盛岡、仙台などの東北や北海道など近県での就職希望が多い。
- ・市内や県内での就職が困難なイメージがある。

■結婚について

- ※結婚の希望は、20代後半から30歳前後で結婚したいという意見が多かった。子どもについては、2～3人ほしいという意見が大半であったが、収入や金銭的な不安があるという意見もあった。また、出会いがない、仕事を通して考えが変わるといった意見も出された。

■まちづくりについて

○「住みやすいまち」のイメージ

- ▼店が多いだけでなく自然と共存できる▼交通マナー、治安が良い▼道路が整備されている▼気軽に遊びに行けるような施設が充実している▼市民の心に余裕がある▼行政と市民の関わりが深い

○八戸を「住みやすいまち」にするために必要なこと

- ▼むつ湊をもう少しPRしてほしい▼中心街、むつ湊の活性化▼中心街を若者にも高齢者にも楽しめる場にしてほしい▼館鼻公園はきれいだが、アクセス道路が狭く不便▼道路を広くし、自動車が走りやすくする▼八戸駅周辺も店を増やしてほしい▼八戸大学行きのバスが少ない。バスや電車などの本数をもう少し多くしてもよいと思う▼市民一人ひとりが住んでいる地域に真剣に目を向けなければならない

■その他

○八戸の魅力

- ▼住みなれているため、生活しやすく、安心感がある▼食べ物が美味しい▼海などの自然だけでなく、商業施設など都市機能の両方を楽しめる▼夜景がきれいで、ビューポイントも多い（函館市に負けていない）▼館鼻公園がきれいに整備されて、素晴らしい▼自動車があれば、住みやすいまちだと思う。

○八戸に遊びに来た友人（東京在住）のもてなし方

- ▼海に連れて行く▼景勝地を案内する▼八食センターに連れていく▼美味しいものを食べて、自然を堪能してもらう

○その他

- ▼八戸には、ずば抜けて自慢できるものがない。（インパクトのあるものが欲しい。）

<②大学生グループインタビュー（八戸工業高等専門学校）>

■中心街について

▼大型の本屋やCDショップ、ファッションセンター、男性専門の服のショップ、「裏路地にカフェ、雑貨屋、服屋」、外観・照明がおしゃれな店などがあれば出かけたかった▼音楽イベントを開催してほしい▼中心街は怖いイメージがある▼中心街の店が午後8時で閉店するのは早すぎる▼最終のバスの時刻も遅くしてほしい▼中心街に人を呼ぶなら、イベントや新しい建物など、宣伝をうまく行うに限る（とりあえず、中心街を知ってもらうことが必要）

■仕事について

※首都圏での就職希望が多い。地元や海外での就職希望の意見もあった。また、暮らしやすいまちで働きたいという意見もあった。

■結婚について

※結婚の希望は、20代後半から30歳前後で結婚したいという意見が多かった。子どもについては、2～3人ほしいという意見が大半であった。また、結婚しなくてもよいという意見や国際結婚の希望もあった。

■まちづくりについて

○「住みやすいまち」のイメージ

▼交通の便が良い▼外国の食べ物が売っている店があるなど文化的なまち▼安全で住みやすいまち。（街に休憩するベンチがあるなど）▼道路と歩道がきちんとあり、住宅地区と商業地区がそれぞれ集合している▼歩きやすい歩道があるまち▼欲しいものが1か所に集まっているまち（仙台市など）▼さまざまな人の立場になって、さまざまな面から手入れがされているまち▼行政と地域住民のコミュニケーションがうまくとれているまち▼歩きたばこの全面禁止

○八戸を「住みやすいまち」にするために必要なこと

▼道路の整備、歩道の拡充▼中心街の活性化、安全確保、緑化▼公共交通の充実、海側へのアクセスを良くしてほしい▼八戸は坂が多いので、地下鉄があれば便利▼ホームページなどを利用して世論調査のような仕組みを設ける（仕組みのPRも必要）▼住民にまちづくりに興味をもってもらえるように、行政と住民を結びつけるようなイベントを開催する（例：緑化イベント、市役所の壁をペンキで塗ってアートのまちづくりに参加、まちなかスタンプラリーなど）▼行政側と住民側が親しくなれば、「ここをこうしてほしい」「ここをこうしたら良くなるのでは」といった何げない会話から問題点や解決策が出てくるのではないかと▼八戸公園（子どもの国）は広くて良い場所なので、もっと活用していくべき

■その他

○八戸に遊びに来た友人（東京在住）のもてなし方

▼家に泊めて、郷土料理を振る舞う▼海（白浜・種差・蕪島）に連れて行く▼朝市、むつ湊、館鼻に連れていく（人のあたたかさ、つながりが感じられる朝市がよい）▼八食センターに連れていく▼自然が豊かな所に連れていく（夜であれば、星がきれいに見える場所）▼海産物など食べ物のおいしいお店に連れていく▼カラオケに連れていく

＜③大学生グループインタビュー（八戸工業大学）＞ ※7月実施予定

＜④女性団体等グループインタビュー＞

項目		意見	
地域活力の創出	1-2. 攻めの農業	施策 3) 農業の担い手の育成・強化 ・八戸市農業交流研修センターで多少研修を受けただけでは、農業をやっていくのは難しい。 ・一方、現在の雇用情勢では、長く仕事をしたいと思っている若者を農業に引っ張ってくるよい機会である。 ・この取組を成功させるためには、もっと密にやらなければならない。 ・また、農村側は新しい人が入ってくることに抵抗があり、新規就農希望者と農村側との間を行政がつなぐ必要がある。 ・行政への要望としては、仕組みをつくるだけでなく、実際に動いて、うまくさせるところまで面倒をみてほしい。	
		施策 4) 畜産を核とした産業振興 ・口蹄疫など不測の事態が起こったときの予防策を含めたことを書くべきである。	
	1-3. 攻めの水産業		・水産業も担い手不足であり、水産高校の卒業生が水産業に就職するような支援を実施してほしい。
	1.4 八戸ツーリズム	施策 1) 八戸の魅力売込作戦の展開 ・フィールドミュージアムの「朝市」は既に動いているものである。計画として書くのであれば、もっと前倒し的に書いた方がよい。	
	1-5. 産学官民連携	施策 2) 産学官が連携したまちづくりの展開	・地域サポーターとして学生があげられているが、八戸にある大学の学生だけではなく、八戸出身で市外の国立大学などに通っている学生も活用してほしい。
			・八戸で大学というと3つしか出てこないが、敢えて大学名を挙げないことで、専門学校も含めて、すべての高等教育機関を対象にした方がよい。
・八戸市外の大学とも連携して、知恵やノウハウを地元の大学や市民活動団体が共有できるとよい。			
1-6. 雇用創出	施策 1) 雇用支援体制の強化 ・就職を何とかしてほしい。子どもたちは、大学を卒業しても戻ってこない。		
まちの魅力創造	2-1. 中心市街地再生プロジェクト	・私たちの年代は子どもたちを当てにできない世代である。たとえば、生活に必要な最低限のことがすべてひとつのビルでできるようになるとよい。	
	2-2. 文化・スポーツプロジェクト	施策 1) 新たな文化の創造 ・南郷名画座事業は、名画座が全面に出るのではなく、ホールの利用促進が前面に出て、事業概要の中に名画座が出てくるといったイメージではないか。	
地域の安心確立	3-1. 次世代育成	・公民館や児童館などに関し、柔軟な運営が可能となるよう条例を改定してほしい。 ・福祉と学校が連携してすることが必要ではないか。意見の聞き取りなどを行ってほしい。	

項目			意見
地域の安心確立	3-2. 高齢者・障がい者自立	施策 1) 高齢者の健康保持支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・子宮けいがんワクチンについても考えてほしい。
	3-3. 暮らしの安心	施策 2) 地域で守る暮らしの安全づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会を軸にして、見守りが必要な人が町内でどこにいるかなど地域を把握してほしい。 ・安心・安全のまちを、細かく目が届くようにし、まちなか以外の町内会も支援してほしい。
自治基盤の整備	4-1. 協働のまちづくりプロジェクト	施策 1) 地域コミュニティの振興	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会加入促進は以前から行っているので、町内会加入促進事業と八戸市連合町内会設立支援は一つにまとめてほしい。
			<ul style="list-style-type: none"> ・町内会の加入は、その地域に住んでいる PTA の方など、みんなが関わる必要がある。 ・いろんな人が町内会の加入促進に関わるためには、別の事業として実施していくとよい。
	4-3. 市民サービス向上プロジェクト	施策 2) 市民への情報提供の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の IT 講習会はあるが、たとえば携帯の講習会や小中学生の IT 教育なども盛り込むのがいいのではないか。
その他			<ul style="list-style-type: none"> ・事業概要の記載の仕方：民間だけが主体のものは除いてもいいのではないか。書くのであれば、事業概要に市が関与することを明記したほうがいい。 ・IT の情報量や情報発信力を利用するためにも、全体的に IT の活用を盛り込んだほうがよいのではないか。 ・「人をつくる」ことに重きを置いてほしい。 ・すべての市民がそこに行くだけで、話をきいてもらえ、楽になれるような場や機会を確保してほしい。 ・はっちに子育て支援関連の機能が設置されると聞いているが、子育てに限らず、いろいろな相談の窓口があるとよい。

＜⑤NPOグループインタビュー＞

項目		意見
地域活力の創出	1.4 八戸ツーリズム	<ul style="list-style-type: none"> ・八戸は三陸海岸の玄関口であり、そのことをまず市民がもっと意識することが必要である。 ・マイルポストなどランドマークを設置するなど、八戸を起点としたツアーを組めるようなPRを行ってほしい。
		<ul style="list-style-type: none"> ・八戸市には県内で3番目の国宝がある。修学旅行は国宝があるところに行く傾向があるので、戦略的に誘致してほしい。 ・種差海岸を国立公園化する努力をしてほしい。
	1-5. 産学官民連携	<ul style="list-style-type: none"> ・市民大学などで先生を呼んでくることがあるが、地域の力を再発見する講座を開いてほしい。
まちの魅力創造	2-1. 中心市街地再生プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・中心街の再生にあたっては、従来のものを再生するのではなく、新しいものをつくっていくべきである。
	2-2. 文化・スポーツ	施策 2) 歴史的文化的資源の保全・活用 <ul style="list-style-type: none"> ・無形民俗文化財後継者養成事業：岩手は遠野物語で売り出しているが、ルーツは八戸にあるらしいので、高齢者から話を聞いて保存すべきである。
地域の安心確立	3-2. 高齢者・障がい者自立	施策 2) 障がい者の就労支援の充実 <ul style="list-style-type: none"> ・八戸第二養護学校は、東日本の中で一番大きく、就職の受け皿が限界にきている。 ・県の学校だが、市内の特殊学級からあがってくるので、就職に関する指導、支援をしてほしい。
	3-3. 暮らしの安心	施策 2) 地域で守る暮らしの安全づくり <ul style="list-style-type: none"> ・防災意識の啓蒙を、どこかに盛り込んでほしい。
自治基盤の整備	4.1 協働のまちづくり	施策 1) 地域コミュニティの振興 <ul style="list-style-type: none"> ・下長地区では、町内加入を働きかけることを通じて、安心・安全などを考えるきっかけとなっている。
		<ul style="list-style-type: none"> ・公民館は、夜間など、働いている人には使いつらくなっている。もっと柔軟に対応できる体制を整えてほしい。
その他	公共施設の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい児童館は込み合っている一方、小学校の教室は余裕があるという実態もある。 ・空いているところ、余っているところを有効に利用するという視点で、住民が満足できるものを作ってほしい。
	ドクターヘリについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ドクターヘリが青森市へ移ると、救急医療を学びたい医者もいなくなることになる。 ・広域との連携や市民も一定の負担をすることも含めて、独自にドクターヘリ運行の検討をしてほしい。
	八戸らしさについて	<ul style="list-style-type: none"> ・後期計画を前倒しで策定するということの積極性を高める観点からも、後期計画の巻頭言にでも、後期計画における「八戸らしさ」を述べてほしい。
	道路整備について	<ul style="list-style-type: none"> ・八戸が広域交通の要衝であることを考えれば、戦略プロジェクトには、建設部門、都市計画部門の記述を充実してほしい。
	指定管理者制度について	<ul style="list-style-type: none"> ・児童科学館での販売行為の禁止（科学教室を開こうとしても材料費を徴収できない）や、図書館の運営時間（夕方以降利用できない）など、柔軟な運営ができるようにしてほしい。
	計画の進め方	<ul style="list-style-type: none"> ・計画を立てるのはよいが、負担と実行、優先順位、効率性を考えてほしい。

＜⑥市民ワークショップ＞

【テーマ①：地域活力の創出】

- **2015年LNG輸入基地稼働⇒地元での利用促進とポートアイランド基盤整備**
 - ・ 単なる流通基地ではなく、地元でもLNGを使ってほしい。
 - ・ 地元での消費拡大のため、付随する産業の創出や冷熱活用プロジェクトを立ち上げてほしい。
 - ・ 地元業者の建設工事への参入を促進してほしい。そうすることでメンテナンスにも関わられる。
- **農業の後継者不足、農産物価格の低迷⇒流通経路開拓、規模拡大等**
 - ・ 農協以外の独自の流通経路を開拓したり、販売・加工までやるなど検討が必要。
 - ・ 規模の拡大、経営の安定がないと後も継げない。
- **水産資源減少の中、魚を八戸に集める⇒LNGの冷熱を活用した大規模冷凍庫**
 - ・ 凍結能力が低く魚を集められないが、水揚げ最大の時期に合わせた設備投資は難しい。電力の価格設定の問題もある。
 - ・ LNG基地の隣に冷熱を活用した大規模な農水産物用の冷凍庫の建設。リスクは大きい挑戦する価値はあるのではないかと。
- **八戸の自然や食のPR⇒八戸駅前でのPRが必要。朝市を盛り上げてほしい。**
 - ・ 景観や食、三社大祭などもっとPRしてほしい。八戸駅前にPRできるものがあるとよい。
 - ・ 片町朝市について。もうしばらく長根でやれるようにしてほしい。
 - ・ 朝市目当ての観光客は宿泊するので魅力的。朝市を盛り上げてほしい。
- **厳しい雇用情勢⇒地元経済の回復を**
 - ・ 担い手不足を抱えている業種とのマッチングが必要だが、個人としてそのような業種を選ばない。賃金的魅力を向上できないか。人材が足りない業種への市の補助など考えられないか。
 - ・ 現場の仕事より机で働くことに魅力を感じる社会意識を変える必要があるのではないかと。

【テーマ②：まちの魅力創造】

- **はっちの知名度・理解度向上の必要性**
 - ・ 「はっち」の意味や目的の理解に、市側と市民側で大きな温度差がある。様々な事業ができる新ジャンルの公共施設であるので、体験型学習や観光のほかアートも含めた情報の集積庫かつ発信の場として機能してほしい。
- **学校連携等による市民練習場の検討**
 - ・ 市民練習場として学校開放や既存の施設も利用できるよう検討してほしい。団体が学校等から直接許可を得るのは難しいので、市に仲介等を行ってほしい。その際、空き時間等の情報管理があれば望ましい。
- **スポーツ・文化の環境整備の必要性**

- ・ 学校（特に、高校）卒業後もスポーツ・文化活動を継続できる環境整備が必要。高い競技技術を持っている選手が、市外に流出してしまうことは問題。地区ごとに養成する体制を検討する必要がある。
- **屋内スケート場の多目的型施設としての整備**
 - ・ 屋内スケート場については、国際大会も招致できるよう、また、街なかに立地する利点を活かしてコンベンション開催可能な多目的型として検討してほしい。
- **公共交通の整備の必要性**
 - ・ 公共交通については、中心街と大学のアクセスを改善するとともに、時刻表を気にしなくてよいバスダイヤを編成してほしい。また、メインストリートには自家用車を進入させない施策が必要。

【テーマ③：地域の安心確立】

- **民生委員の高齢化と守備範囲の拡大⇒システム見直しの必要性**
 - ・ 民生委員の業務内容が多すぎるため、見直すべき。
 - ・ 高齢化が進む町内会の推薦で民生委員を選定しているため、民生委員も高齢化する。システムの変更が必要である。
- **学童保育等、放課後施策の拡充を図ってほしい**
 - ・ マニフェストに「放課後児童クラブの数を 32 から 50 まで増やす」とあるが、そのスピードをもっと上げてほしいし、質の面でも向上させてほしい。
 - ・ 国では新たに、放課後子どもプランとして、学校の空き教室を活用した対策も講じているため、市でも複数の部署が連携し柔軟な対応を取ることで、使い勝手が向上する。
- **介護予防教室の取り組みをより積極的にすべき**
 - ・ 高齢者の介護予防ができていないと介護保険料に跳ね返り、結果として負担増となってしまう。
 - ・ 特に、介護申請する前の人や、予防教室などに出てこない人へのケアが重要である。
- **公共にも地域にも限度がある⇒公助・共助・自助の確立が重要**
 - ・ 何でも行政ではなく、地域でできることは地域でやった上で、やれないことを行政にお願いするという基本的な考え方について、住民が共通認識を持つべきである。

【テーマ④：自治基盤の整備】

- **地域のことを話し合える、井戸端会議的な場がほしい**
 - ・ 住民の意識が変わるための方策として、地域のことを気軽に話し合える場があれば、組織づくりに発展し、具体の事業に結びついていくのではないかと。
- **公民館が立ち寄りやすい場となるよう、雑談スペースの設置などを**
 - ・ 地域を元気にする拠点として、公民館は有効。しかし用事が無いと行きづらい。
 - ・ 講座だけでなく、地域の人が集まりやすい雰囲気を作られるといい。
- **市民活動に目覚めつつある人のために、サポートセンターの改めでのアピールを**
 - ・ 市民活動サポートセンターは、市民活動の重要な拠点である。

- ・ 市民活動に目覚めつつも、何をしたいかわからずにいる人たちのために、こういう拠点があるということを改めてアピールしていければいい。
- **協働は、行政側も市民側も腹を括って取り組む必要がある**
- ・ そうでないと、役割分担も曖昧な、かたちだけの協働になりかねない。

<⑦～⑩意見交換会（4回開催分）>

1. 地域活力の創出

<1-1. 企業誘致推進・中小企業強化プロジェクト>

- ▼八戸高専や八工大の卒業生の地元就職率が低いと聞く。その理由として、市内で就職するための、背後にある地元企業立地が貧弱なことがある。企業誘致を推進するにしても、背後の企業・施設がなければ、参入しづらいのではないかと。
- ▼企業誘致の必要性が言われている。市でも積極的に取り組んでいるようだが、依然青森県内の失業率は高い。そうすると、これまでの取り組みは有効だったのかということになる。もっと具体的に、これまでの課題と今後の取り組みを整理すべきである。
- ▼北インターの地価が県内の他の工業団地と比べて高いと聞く。以前青森県は、地価の安さや労働力の安さが魅力だった。しかし最近では、都市部との差も少なくなり、逆に冬期間のランニングコストの高さがネックとなっている。八戸駅周辺にあった八戸酒造が千葉県松戸市に営業所を移転したのは、焼酎の販売先の8割が市外のためである。

<1-2. 攻めの農業プロジェクト>

- ▼例えば夕張メロンや上北ながいも、田子にんにくのように、具体的に品目を挙げて、農産物のブランド化を推進していくことを望む。
- ▼糠塚きゅうりは食べ方もおもしろい。近郊にもおもしろいネタがあるのではないかと。
- ▼何か一つでも良いので強力に進めてほしい。

<1-3. 攻めの水産業プロジェクト>

- ▼漁船の老朽化も深刻である。新たな船をリースできるのは余力のある会社だけであり、もっと皆ができるような取り組みを期待する。
- ▼「八戸前沖さば」のネーミングが非常に読みにくい。東京の広告代理店からも「わかりにくい」との指摘を受けた。戦略的に変えられないか。

<1-4. 八戸ツーリズムプロジェクト>

- ▼ジャズフェスティバルについて、是非ポスターを見るだけでも行きたくなるような取り組みが求められる。

<1-6. 雇用創出プロジェクト>

- ▼若い人の仕事がないことをどうするのか。企業誘致もいいが、市内でもっと掘り起こせば何かあるのではないかと考えている。朝ぶろの取り組みは評判が良く、リピーターもある。このように、地域を活性化する資源の掘り起こしに力を入れるべきだし、市民の頑張っている姿や分野を集めてPRすることも考えられる。
- ▼計画に、もっと具体的な取組みを掲載すべきと思う。
- ▼いかに就職させるかということ、学校やハローワーク、労働組合、事業所など、現場の声を日常的に聞きながら、市として何ができるか考えるべき。
- ▼宮古市では、市の斡旋で住宅リフォームを推奨し、結果的に建設関連業者が潤っている。八戸市でも耐震診断等やっているが、一般住宅も含めもっと進めるべきである。

2. まちの魅力創造

<2-1 中心市街地再生プロジェクト>

- ▼中心街にはちができて、向かいの空きビルが目立つ。もっと商店街の声を聞くことが必要だと思う。例えばはちの向かいをバスターミナルとして整備するなど、いろいろなアイデアを持っているはず。
- ▼中心街には店が並ぶべきだが、空き店舗補助の要件が厳しく、小企業や起業家が参入していけない。みろく横丁をモデルに、誰でも参入しやすい仕組みを検討すべきである。
- ▼役所の点字ブロックは黄色になったが、中心街のブロックはピンクなど様々。視力の弱い人にとっては黄色が最も見やすい色であるため、中心街でも統一すべき。
- ▼中心街に人を呼び込む努力をしないといけない。市は、中心街の空洞化の原因をどう捉えているのか。空き店舗など社会資本の有効活用が先決だった。人口動態を把握していない限り、はちができて中心街は活性化しない。タウンマネージャーの小林氏も「街の中に魅力あるものがない」、「街の賑わいや価値に着目する社会的視点がない」と言っていた。人口動態をよく調べた上で、間違いのない責任ある計画を策定してほしい。
- ▼本計画では、イベントの開催で賑わい再生を図るようだが、一過性のものであって商店の利益にならない。七夕や三社大祭も客はそれが目当てで訪れるだけで、経済効果がない。市では単に中心街に人が出ればよいと考えているのか。中心街の何を活性化するか明確にしてほしい。街なかの人出が増えるということだけに税金が使われるのは適当ではない。

<2-2 文化・スポーツプロジェクト>

- ▼市民練習場は、根城小が使えなくなることもあるため、早期検討が必要だと思う。
- ▼小学校にプールを建設できないのも問題である。その一方で、計画にはスポーツ振興とあるのは矛盾している。ここ20年間学校のプールを作っていないとのことだが、白山台小でもマイクロバスを借りてプールに行くなど大変である。
- ▼アート分野に対しては市から助成することになると思うのだが、既存の団体への配慮も必要ではないか。総合的に調査し、フォローしてほしい。
- ▼「アートのまちづくり」も今まで活動している人たちの活性化に繋がらないといけない。

<2-3 環境創造プロジェクト>

- ▼生ごみリサイクル事業の具体的な状況が気になる。生ごみリサイクルと資源ごみの回収率を上げていければよいと思うが。
- ▼現在行っている生ごみに関する取り組みは、各家庭の取り組みが中心で、段ボールコンポストなども継続的な取り組みにはなっていない。積極的な自治体では、行政が処分のための場をつくるなどしているが、八戸はどこかの店や地域限定の取り組みでしかなく、部分的支援にとどまっている。生ごみを土に返し、そこで農家が作物を作るというようにサイクルをつくることで効果が上がるとわれ、そうした取り組みが住民の意識向上に繋がる。
- ▼防犯灯設置は町内会に任せているが、場所によって防犯灯が不足し、暗い所がある。市側でも自ら調査し、自ら設置することも必要と思う。
- ▼防犯灯の設置がなぜ環境分野なのか。環境への配慮を全面に出したためというが、暮ら

しの安心プロジェクトの方が適当ではないのか。

3. 地域の安心確立

<3-1 次世代育成プロジェクト>

- ▼待機児童は深刻な問題だと思う。町内に認可外保育園があり、定員は 20 人だが満杯である。月 1 回の休み以外、24 時間フルに利用されていることから、現状はもっと深刻なのではないか。働きたくても預ける場所がない、働くところがないなど、問題は様々。市として、少子化対策含め、現状を正確に把握した上で、幼稚園や保育園を増やすなど検討すべき。また、小学校でも、放課後の利用をしやすいような改修を行っていくべきである。
- ▼計画を見ると、「やります」ということがたくさんあるが、「やめます」という作業をもっとするべきではないか。無駄だと思うことも山ほどあるが、市長への手紙を出しても、担当者次第では適当な返事しか返ってこない。やめるための委員会なども作って議論してほしいし、その上で子育ての分野などに集中的に投資してほしいと思う。
- ▼「次世代」の前に「現在」の子どもたちへの対策を急いでほしい。学童保育の利用料について、市のホームページではほとんどがおやつ代として月 3,000 円程度と謳っているが、それは誤りである。一日のおやつは 100 円になるはずだが、実際は 20 円程度。飲み物も良い所では麦茶だが、水の所もある。運営費を賄っていないというのが実態であるので、ホームページの訂正のほか改善も行ってほしい。学童保育は自治体の努力目標なので、財政難を理由に後回しにされがちだが、子育てが後回しにされるような市政では「次世代育成」に危機感を覚える。
- ▼また、ファミリーサポートセンターについて学童保育後の預かりの依頼が非常に多い。学童保育はほとんどが 18 時までだが、19 時までで延長してほしい。1 時間 500 円の預かりでも 1 月で 1 万円になる。学童保育が 18 時までということで利用を諦め、仕方なく自宅にいる「待機児童」も数多くいる。学童保育は努力目標であり、また、公設民営であるので、延長をお願いせずにいると思うが、厚生労働省からは 2 年前に指導できるとの文書が出ているはず。
- ▼児童館については利用料が無料ということもあり、学童保育やファミリーサポートを利用して親より可処分所得が多く、不公平である。包括的な見直しをお願いしたい。
- ▼子育て支援に関する取り組みはあるが、子どもを増やすための取り組みはないのか。大学を卒業しても就職先がない中、子どもをつくれるかということもある。
- ▼子どもの世話をするボランティアを養成する講座があり、そのためには講習を受ける必要があるが、ボランティアなのだから、テキスト代も無料でいいのではないか。

<3-2 高齢者・障がい者自立プロジェクト>

- ▼社会参加の促進に関連して、段差だけでなく、路面凍結によっても障がい者の外出機会が失われてしまう。もっと具体的な取り組みが必要である。

<3-3 暮らしの安心プロジェクト>

- ▼また、地域の安全づくりが進んでいるが、市からの直接的な交付金があってもいいのではないか。

- ▼自殺対策について本計画に掲載されていないが、どのような議論が行われたのか。自殺の原因が多岐に渡るのでワンストップ窓口はよい考えだと思うが、その前に自殺を止めることが必要。初期介入（「ゲートキーパー」）の後、ワンストップ窓口につながるシステムがよいが、当市にはそれがない。今の計画では自殺対策の扱いが低く、危惧している。
- ▼ドクターヘリの2機目の導入を目指す寄付の活動について、広報などでもっと宣伝すべき。また、市としても県にも強い思いを伝えるべきだし、いろいろな方法が考えられる。

4. 自治基盤の整備

<4-1 協働のまちづくりプロジェクト>

- ▼市として、県内主要都市の町内会加入率や費用を捉えているのか。また、アパートに住む転勤族がいる中で、三社大祭への参加を促すなど、加入促進のための様々な方法が考えられると思う。連合町内会をつくっただけでは、何も変わらないのではないかな。
- ▼町内会に関連して、民生児童委員は509人いるが、高齢化が進んでいるうえ、多岐に渡る守備範囲で疲弊している。別々の守備範囲にしてはどうか。また、町内会自体が高齢化していることも問題。若い人が加入しても年配者が幅を利かせているような事例があるのではないかな。ただ加入を増やすだけではなく、若い世代にシフトするような施策を講じてほしい。
- ▼南郷の場合、町内会加入率が高いため問題ではないと思うが、町内会がどれくらい機能しているか、将来的にどうなっていくのかという部分では、南郷区でも検討の余地があると思う。
- ▼ボランティア活動の支援体制を整備するとあるが、周囲が活動を認めてくれる、評価してくれるような空気づくりもできればよい。

その他意見

- ▼こどもの国は立派だが、近所の公園は老朽化した遊具を取り払うだけで更新してくれない。身近な公園ももっと大事にしてもいいのではないかな。
- ▼包括的な都市計画というものが決定的に欠けているように思える。一つは、人口、町々の密度について把握した上でやってきたのか、二つめは、市街化調整区域について、同心円状に市街地を拡大するはずだが、そのようになっているのか、疑問に思う。これまでの市の都市政策は、人口の伸びに比例して市街地が拡大するという基本を疎かにしている。市街化調整区域という規制は財産権に影響するものなので、平等性、公平性、一貫性が必要。

報告3 第2回部会での審議結果について

1. 地域活力の創出プロジェクト群

(1) 1次案に対する修正意見

<1-1. 企業誘致推進・中小企業強化プロジェクト>

- 事業概要の修正：港湾施設整備事業 ⇒ 臨港道路整備を追加

港湾整備事業には、臨港道路整備、岸壁も入るとの意見であったが、港湾河川課に確認したところ岸壁の新設については計画がないとのことで、臨港道路整備のみ追加。

- 事業概要の修正：八戸都市研究検討会事業 ⇒ 「質の高い」を「専門性の高い」に修正

- 掲載プロジェクトの変更：アントレプレナー情報ステーション事業

1-5. 産学官民連携プロジェクトの施策1) 起業支援の充実と産業分野における連携・交流の促進、または、1-6. 雇用創出プロジェクトへの掲載を検討

<1-4. 八戸ツーリズムプロジェクト>

- 事業追加の検討 ⇒ コンベンション誘致に関する事業の追加

観光課と観光コンベンション協会で協議し、事業を追加する方向で検討

<1-5. 産学官民連携プロジェクト>

- 施策の削除 ⇒ 施策2) 産学官民が連携したまちづくりの展開の削除と掲載事業の移動

八戸都市研究検討会 → 施策1に移動

学生地域貢献表彰制度 → 3-1の施策2) 教育環境の整備への掲載を検討

八戸市民大学講座 → 長年継続している事業のため削除を検討

地元企業ファンづくりプロジェクト → 3-1の施策2) 教育環境の整備への掲載が適当地域活力の創出プロジェクト群へ掲載する場合には事業概要の工夫が必要

<1-6. 雇用創出プロジェクト>

- 事業概要の修正：経済雇用連絡協議会の運営、八戸雇用創出戦略ビジョンの推進、無料職業紹介事業等

曖昧なところがあるので分かりやすく記載

(2) 個別施策・事業等に関する意見

<1-2. 攻めの農業プロジェクト>

- 口蹄疫など伝染病の予防について、施策1) 産地化の推進の中で対策が必要ではないか。

<1-4. 八戸ツーリズムプロジェクト>

- 八戸にはコンベンションに使用できる大規模な会場がないため、屋内スケートリンクを建設する場合には、夏季にコンベンション会場として使用できる施設にしてほしい。

- (会場や宿泊施設などの関係で) 現状では大きいコンベンションを誘致するのは無理なので、小さいコンベンションを数多く誘致するということになるのではないか。
- 廃墟マニア、工場マニアがいる。アニメやオタク系の人たちを集めるような仕掛けも考えられるのではないか。

<1-5. 産学官民連携プロジェクト>

- 産学官民連携は手段であり、どの分野でも行っているもの。産学官民連携プロジェクトは必要ないのではないか。

<1-6. 雇用創出プロジェクト>

- 無料職業紹介事業について、ハローワークとの違いを明確したほうがよい。企業誘致のためという視点の方が分かりやすいのではないか。企業誘致が進めば雇用も増える。
- 雇用創出戦略ビジョンについて、医療・福祉、環境、農水産業など分野におけるビジョンを作成することだが、人手不足の分野にうまく人が入っていけるようなものにしてほしい。
- 電子ブックの普及に伴い、オーサリング(文字や画像、音声、動画といったデータを編集して一本のソフトウェアを作ること)を地方でできないかという話も多い。

2. まちの魅力創造プロジェクト群

(1) 1次案に対する修正意見

<2-1 中心市街地再生プロジェクト>

- 中心街の一方通行について、対面通行から変更したときに比べ、自動車通行量は大幅減っている。一方で、来街者からは一方通行のせいで目的地に着けず不便であるとか、立ち寄る際に駐車場を探すのが大変であるなどの声も聞こえる。このようなことから、三車線の一方通行について一本を駐車帯に変更、あるいは対面通行に変更することはできないか。

- 先進国では自動車を中心街に進入させない方向に進んでいる。市として、中心街における自動車交通の利便性を求めるのか、公共交通の利便性を求めるのか、議論の整理が必要と思われる。(担当課より)

(2) 個別施策・事業等に関する意見

<2-1 中心市街地再生プロジェクト>

- 中心街で老朽化した建物について取り壊した方がよいものが見受けられるが、解体費用について国や市からの支援がほしい。
- 市民に対する「はっち」の知名度は低い。新しい概念の公共施設なので伝わりにくいのは分かるが、宣伝不足なのかもしれない。

<2-2 文化・スポーツプロジェクト>

- 屋内スケート場について、コンベンション開催等に使用できる多目的施設として整備してほしい。
- カーリングのチーム青森のように市のシンボリックな存在を作れないか。レスリングの街として伊調氏を活用するなど。アイスホッケーやバトントワリングなどもよい。

<2-3 環境創造プロジェクト>

- JR八戸線について、八戸・本八戸間だけでも複線化し20分間隔で運行できるようにできないか。
- 公共交通施策はほとんどがバスに関する施策だが、市民目線ではJRがないと利便性が不十分である。他の交通手段を含めた全体のビジョンが必要と思われる。

<その他>

- 一般的な話として、市が事業を考えていない、予算確保が難しいという理由でもって総合計画に掲載しないとせず、市として取り組まなければならないものを「検討」という形で残すべきではないか。

3. 地域の安心確立プロジェクト群

(1) 1次案に対する修正意見

<3-3 暮らしの安心プロジェクト>

- 施策2) 暮らしの安全づくり ⇒ 暮らし支援室（総合相談窓口）の設置

- ・自殺や貧困、多重債務など、様々な問題を抱える市民にワンストップで対応し、単に担当部署を紹介するだけでなく、担当部署と一緒に訪れ相談事項を伝えてあげるなどしながら、問題を解決する「暮らし支援室」を設置し、市民の暮らしの安心をサポートする。
- ・市職員OBの活用や、市民相談室への「動ける相談員」の配置、消費生活センターのワンストップサービスの拡充なども考えられる。

(2) 個別施策・事業等に関する意見

<3-1 次世代育成プロジェクト>

- つどいの広場事業について、運営主体の決定に当たっては、十分な経験と実績、専門性を有する人材を配置するよう考慮する必要がある。また、活用促進策として、駐車場の確保や駐車料金についても検討が必要。
- 青少年海外派遣事業について、派遣者数は26人と、昨年の市内中学生7,830人のうち0.3%しか派遣されておらず、効果的とは言い難い。もっと多くの生徒が体験できるような事業を検討すべきではないか（経費をかけずに効果を発揮する国際交流の方法）。

<3-2 高齢者・障がい者自立プロジェクト>

- 介護予防事業の利用促進にあたり、保育園との交流を深め、乳幼児と関わる事業を検討すべき。高齢者側と保育所側の双方からのアプローチで相乗効果が発揮される。
- ボランティアポイント制度について、ネーミングも含め、従来の無償のボランティア活動と混同されないよう、実施に向けて十分な検討が必要である。
- 鷗盟大学院の設置について、地域の指導者を育てるために始めたはずの鷗盟大学だが、卒業生が地域の老人クラブに加入しない。もっと成果が地域に還元されるような人材育成の方向で考えてほしい。

4. 自治基盤の整備プロジェクト群

(1) 1次案に対する修正意見

<プロジェクト群の名称>

- ▶ プロジェクト群名称の変更：自治基盤の整備 → 自治力の向上

他プロジェクト群のようにわかりやすい表現とすべく、自治をキーワードに「何をどうする」がわかりやすい表現として、「自治力の向上」を事務局より提案し、部会の了承を得た

<4-1. 協働のまちづくりプロジェクト>

- ▶ 地域コミュニティの振興度を測る指標の扱い

指標として、町内会加入率を設定してはどうかとの意見に対しては、町内会への加入は行政が強制するものではなく、地域が自ら考えるべきものであることから、町内会加入率、加入世帯数の何れも注目指標として掲載しないほうが良い

なお、各町内会や、設立を検討している（仮称）八戸市連合町内会において、自らの目標指標として掲げることはあってもいいのではないかと

<4-3. 市民サービス向上プロジェクト>

- ▶ 事業概要の修正：（仮称）各界女性達と市長のトーキングカフェの開催

「第一線で活躍する女性」との記載は敷居が高く感じられるので、普通の女性が入りやすいよう、工夫を検討する

- ▶ 事業概要の修正：（仮称）女性チャレンジ講座の開催

「政策提言することができる女性」との文言について、敷居が高く、市に都合のいい人材育成との印象を与え兼ねないため、普通の女性が入りやすいよう工夫を検討する

また、普通の女性が入りやすいよう、井戸端会議的に女性が社会を広く見ることができるようになるための講座としての開催も検討する

<4-4. 広域連携・自立の促進プロジェクト>

- ▶ 事業概要の修正：定住自立圏形成事業

純粋に協定を締結した事業等を記載していたところ、中心市としての八戸市の位置付けを強めた記載を検討する

(2) 個別施策・事業等に関する意見

<4-1 協働のまちづくりプロジェクト>

- ▶ 町内会 PR のために、統一された資料があるといい。一般的な町内会のメリットについて統一された資料に、地域の独自性については付加して用いるイメージ。
- ▶ 学校教育においても、子どものころから協働意識を培う機会を設けて積み重ねていかないといけないのではないかと → 学校は教育委員会の所管であり行政の立場としては、これについての文言追加等は無くてもいい。

<4-2 行財政改革プロジェクト>

- ▶ 「給与の適正化」は、特殊勤務手当関係について完了となっているが、給与の適正化自体は、継続していく必要がある。「第5次行財政改革大綱」の内容にすべて含まれているのであれば、事業説明に給与適正化の文言を入れるべきではないかと。誤解されないような説明が必要。

- ふるさと納税の御礼品として地元広報紙等も贈ると、話題ができて寄付者は喜ぶと思う。
- 一部署一改善運動について、結果を評価する仕組みを整え、積極的に進めるべき。

<4-3 市民サービス向上プロジェクト>

- 「市民の参画機会の拡大」に「パブリックコメント」の項目を入れるべきではないか。「第5次行財政改革大綱」に含まれているとのことだが、わかりづらいのではないか。
- 市政モニター制度は、アンケートの実施のみであるため、モニター同士が集まる機会があってもいいのではないか。何かを公募する際に、市政モニターをもう少し活用するなどの取組みが必要。また、活用した際は、政策への反映・検討状況を公表すべき。
- サービスに対する行政コストの公表について検討すべき。
- アンケートや出前での意見聴取を積極的に行い、行政サービスと市民が求めるサービスに乖離が無いようにしていくべき。

<4-4 広域連携・自立の促進プロジェクト>

- 他地域との連携を通じ、補完し合う取組みは今後必要となってくる。国の財政支援だけを当てにするのではなく、地域主導の考え方が重要である。